

大正三年十一月一日發行

# 十全會雜誌

東京醫學專門學校十全會

第九十卷  
第十一號  
(第六百號)

十主會雜誌(第十九卷第十六號)目次

○原著及實驗

- 放射能働性ニ就テ。
- 血乳廢尿ノ一療法。
- 鬼胎分娩ニ就テ。

醫學博士 生沼曹六

笠岡芳名

諸橋林太郎

○通信

- 松崎清博氏通信。
- 鈴木寛之助氏通信。

○雜報

- 金澤病院集談會。
- 中華民國浙江省の醫況。
- 臺灣の醫況。
- 廣島同窓會の會員。

韓清泉  
上池豐

○叙任及辭令

- 宮內省。
- 文部省。
- 金澤醫學專門學校。

○人事

- 小俣軍醫の戰死。
- 百谷義一氏。
- 宮田教授歸朝。
- 石坂、須藤兩教授歸朝。
- 生沼曹六氏。
- 塚本政治氏。
- 丸山直友氏。
- 高崎文雄氏。
- 開業。
- 轉任。
- 轉居。

○會告

- 校外特別會員會費納付調書。
- 創立二十五年記念館寄付金第四回報告。

○廣告

- 居所不明會員。



「ミグレン」二〇チ四包トシテ持續ス腹部ノ疼痛ニハクレーデ氏可溶性銀塗布及ビ氷嚢ヲ貼用ス

## 通信

### ●松崎清博氏通信

(大正二年卒業。十全會宛)

(前畧)小生儀先般都合に依り左記に轉任仕り候當院は一種の施察病院にして患者の自由に接し練習するの機會有之候只患者比較的多く、中には研究の價值あるものも多からむも凡骨の悲さにて看過するを遺憾に存じ候目下京大に荒木先生醫化學松浦先生の花柳病講義有之毎金曜午後出席致し其他餘暇には全院に出掛け他教授のクリニックを聴き居り候當地には同期卒業生少く中野靈吉君は京大質屋内科に研究致し居られしが本月五日より日吉病院(當市立傳染病院)醫員拜命せられ田原利崇君は卒業後播州明石病院にて研究し居られしも今夏脚氣の爲め當地なる郷家に歸り居られ候、下川外史君軍醫生として伏見聯隊に入られしも痔疾の爲め兵役免除となり市内神服病院に勤務せられしが八月末都合に依り西ノ宮同生病院へ轉任いたされ候先は亂筆を以て近況迄如斯に御座候頓首

京都市八條通濟世病院

十月十五日

松崎清博

### ●鈴木寛之助氏通信

(明治二十九年卒業。海軍軍醫中監。獨英國留學)

鈴木氏は本校出身の秀才なるが歐洲戰亂時に獨逸にあり國交斷絶によりて難を英國倫敦にさげ目下全地に止りて研學を持續せらるゝこと、なれり深く全氏の健康と武運とを祈る。

拜啓小生事去八月十五日伯林を退去仕り十九日無事當倫敦に到着仕候今般獨逸國駐在を免ぜられ更に英國に駐在を命ぜられ當分當地に在りて研究し傍ら海戰の創傷を實驗し且つ其他の職務上の知見を得るの好機に接するを得ること、相成申候諸先生へ宜敷御鳳聲被下度候

九月一日

英京倫敦にて

鈴木寛之助

28 Regent's Park Road,

London N. W.

## 雜報

### ●金澤病院集談會 (演說抄錄)

顔面播種狀狼瘡、廣大ナル乳嘴腫、及兩側睪丸護膜腫ノ  
三患者説明并ニ其蠟製摸型(金澤皮膚科製)供覽

土肥章司

一、顔面播種狀粟粒樣狼瘡

本病ハ極メテ稀有ノ疾病ニシテ本邦ニ於テハ未タ其實驗例ヲ聞カズ、余

ハ本症例ヲ以テ嚆矢ト信ズ、歐洲ニ於テモ亦少數ノ實驗ニ過ギズ且其病名モ區々ニシテ一定セズ、余ハヤダツソン氏ノ下セル顔面播種狀粟粒樣狼瘡ナル病名ヲ以テ最モ該當セルモノトナシ該病名ヲ以テ報告スルコト、セリ

高山某女 十五歲 大正三年一月廿一日初診  
既往症 患者生來強健ニシテ著患無ク十二歳ノ時麻疹ヲ經過シ、月花未ダ開カズ、同胞五名皆健全

本病ハ昨年八月初メテ顔面ニ發生シ、三四週間ニシテ既ニ顔面ノ所々ニ多數發生シ、爾來僅ニ其數ヲ増加シ以テ今日ノ狀態トナル、癢痒疼痛ノ如キ自覺の症候モ無シ

現症 發生部位ハ全ク顔面ニ限局シ就中前額、眉毛、鼻根、眼瞼、頰部ニ多數發生シ其他鼻背頤部耳前部上唇ニモ亦數個ノ發疹ヲ見ル、大サハ粟粒大ヨリ半米粒大ニシテ發疹ノ新舊深淺ニヨリ鮮紅色、紫紅色乃至黃褐色ヲ呈シ硝子壓チ加フルニ黃褐色ノ斑点ヲ遺殘ス、該發疹ハ皮膚ノ表面ヨリ稍々隆起スルモノアルモ多クハ皮膚組織内ニ存シ、手指ヲ以テ輕ク擦過スルハ始メテ小結節トシテ觸知シ得ベシ

前額部、鼻根部ノモノハ多クハ皮膚組織中ニ存シ紫紅色ヲ呈シ、阿下眼瞼ニ沿フテ發生セル結節ハ少シク皮膚表面ニ隆起シ、孤立セルアリ或ハ二三融合シテ小豌豆大、不正形ノ結節ヲ形成スルモノ、二アリ、又數個ノ發疹ノ頂点ニ於テ黃褐色澄明ニシテ恰モ漿液ヲ含メルガ如キ觀ヲ呈スルモノアリ試ニ穿刺スルニ毫毛漿液ヲ漏サズ、其他顔面諸部ニ存スルモノハ多クハ紫紅色ニシテ皮膚組織中ニ存ス

眼瞼、鼻、口唇及口腔ノ諸粘膜ニハ發疹ヲ認メズ、患者ハ体格營養共ニ佳良ニシテ内臟諸部ニ異常無シ

ヒルケー氏皮膚反應陰性

右耳前ノ小結節ヲ切除シ「パラフィン」包埋法ヲ行ヒ連續切片ヲ製シ染色鏡檢スルニ

病竈部ハ真皮ノ中層ニ位シ、中央部ハ乾酪變性ニ陥リ、變性部ノ周圍ニハ上皮樣細胞、最モ外層ニハ單核圓形細胞浸潤アリ、病竈内ニハ數個ノ定形性ラングハンス氏巨噬細胞ヲ認ム、彈力纖維ハ圓形細胞間ニ於テ僅ニ微細ノ纖維トシテ存シ、乾酪變性中ニハ尙ホ殘存スル小血管壁ノモノヲ認ム、結核菌染色ヲ行ヒタルモ陰性ニ終レリ

病竈部ト毛囊、汗腺、皮脂腺、或ハ表皮層トハ毫モ關係ヲ証明セズ(蠟模模型、寫眞、切片標本供覽)

二、廣大ナル乳嘴腫  
瀧本某男 五十七歲 大正三年八月五月初診

既往症 患者生來強健ニシテ著患無ク、曾テ花柳病ニ罹リタルコト無シ、本病ハ本年一月両腋窩ニ大豆大ノ疣狀物發生シ次デ鼠蹊部、耳翼後部、臍窩部等ニ發生シ僅ニ癢痒感アリ

現症 左右両鼠蹊部及下腹部ニ於テ一面ニ著シク隆起セル桑實樣凹凸不平ノ腫瘍アリ、陰莖ヲ中央トシテ不正方形ヲ呈シ幅十八仙迷、縱十五仙迷縱横ニ無數ノ裂溝アリ、容易ニ出血ス、表面ハ汚穢暗紅色ニシテ甚シキ惡臭アル分泌物アリ、疣狀物ノ邊緣ハ暗褐色ヲ呈シ乾燥ス、下腹壁及大腿ニ於テ爪甲大ノ暗褐黑色ノ斑アリ之レ腫瘍治癒後ノ色素沈着ナリ、又其半バ治癒セルモノハ皮膚面ニ少シク隆起セル色素斑トシテ認ム

左右両腋窩部ニモ同一腫瘍アリ小豆大、大豆大或ハ小雞卵大ニ達シ扁平ニシテ表面桑實狀ヲ呈シ暗赤褐色ニシテ邊緣ハ黑褐色ナリ、其底部ハ往々頂点部ヨリ狭小ニシテ治癒ニ趣クモノハ漸次細小トナリ終ニ離斷ス、其他耳翼上部、顳顬部、臍窩ニモ同様ノ腫瘍アリ膿樣ノ分泌物ヲ漏ス

陰莖、陰囊、肛門ニ於テハ腫瘍ヲ認メズ

鏡檢上「スピロヘーテ、レフリンゲンズ」ヲ認メ、ワッセルマン氏血清反應ハ陰性

右上腿内側ヨリ腫瘍ノ一片ヲ切除シ鏡檢スルニ上皮索ハ著シク増殖延長

シ種々ニ分歧シ、上皮細胞ハ盛ニ角質過生、不全角化、有棘層増殖ヲ來タシ、乳頭部モ亦從テ延長増殖シ擴張セル毛細血管、單核及多核圓形細胞浸潤ヲ認ム、圓形細胞ハ又著シク擴大セル棘間腔ニモ浸入ス、但シ上記ノ病的變化ハ單ニ真皮ノ上層ニノミ限局シ中層ニ及ブキハ殆ド異常ヲ認メズ（蠟製模型、寫眞、切片標本供覽）

### 三、兩側睪丸護膜腫

才川某男 三十一歳 大正三年六月八日初診

既往症 患者廿一歳ノ時硬性下疳ニ罹リ二十六歳ノ頃ヨリ頭痛激シク兩眼朦朧トナリ次テ左右睪丸腫脹シ、後左右共ニ破壊スルニ至レリ

現症 睪丸ハ左右共ニ著シク腫大シテ小手拳大ニ達シ硬固ニシテ壓痛アリ皮膚ハ暗褐色ニシテ左睪丸ノ表面ニハ小瘻管アリ黃褐色豚脂樣物ヲ露出シ右睪丸面ニハ縱徑五仙迷橫徑四仙迷ノ一大破壊面アリ中央ヨリハ黃褐色豚脂樣壞疽組織突出シ周圍ハ赤色内芽面ニヨリ圍繞セラレ

胸骨体面ニ小雞卵大ノ骨ノ腫脹ヲ觸レ壓痛アリ

ワツセルマン氏血清反應強陽性（蠟製模模型供覽）

## ● 中華民國浙江省の醫况

韓 清 泉

韓清泉氏は明治四十一年本校醫學科を卒業し後外科二部に止まること三年宮田教授の下に一般外科と耳鼻咽喉科學とを専攻し去明治四十四年夏歸國するや浙江省に病院と醫學專門學校とを起し學校長として其敏腕を振ひつゝありしが此夏器械購求のため來朝し我母校をも訪問せられたる節に聞き取りたる所を摘録して讀者諸君の參考に供す。

浙江省立醫專學校及病院の所在地は杭州と名け人口四十万位の都會にして上

海の西北方にあり。浙江省は十一府。七十縣より成立し杭州は其首府なり主として茶、陶器、豚、穀物、鹽、綿、養蠶の地名なり。此夏は甚だ暑く晝間は百〇八度まで上り夜にても九十度以上に達せり。夫故常に「アイスクリーム」と西瓜にてしのぎたり西瓜は安價で大抵十二三錢より二十錢位のものなり。

目下支那には左の五醫學校あり

北京醫專學校は國立にして左の通り澤山の本校出身者あり

解剖學 石川喜直教授。中野鑄太郎氏

全 李 延 摺氏

組織學 湯 爾和氏（全醫專校長）

生理學 周 頌 聲氏

蘇州立醫學專門學校は毎年の經常費四万圓計にして

生理學 張 黻 鄉氏

外科及病理 周 氏

天津公立醫學校

天津軍醫學校

以上二校は直隸省の公立にして母校出身者なし

浙江省公立醫藥專門學校は韓氏の主宰するものなり

杭州醫學校は全じく杭州市内にあり英國人の經營に係り英國醫師三人にて教授し四ヶ年にて卒業せしむ

上海ハーバート醫學校は米國人の經營に係り一年の月謝百圓位なり一昨年より開校せり

上海同濟醫學校は獨逸人の經營する所にして八ヶ年間にして卒業し學生は一學年に十人餘にして一ヶ年月謝百六拾圓位なり。本校は上海の醫學校中

にて最も整頓し且つ校則も嚴重なるものなり

上海ジョーンズ大學中に醫科の設あり其他に文科及工科もあり

上海女醫學校は主として廣東地方の女子も入學せしめ五ヶ年にして卒業せしむ。主として米國の醫學校を卒業せるものにて經營せらる

杭州市には尙ほ衛生材料廠ありて當校卒業の李 君が所長となりつゝあり此地には一師團と一旅團とあるなり

尙ほ將軍府(都督府)には軍醫課あり。巡按使(民政廳)には其内に内務課ありて衛生課之に屬す。其他警察には衛生課を近頃新設することになり

浙江病院は古き建築にして元々革命以前の盛運使(鹽專賣局)を使用しつゝあるなり。病床百箇計を有するも目下入院患者は五十名計なり。目下看護婦三十名を募集し五名を使用しつゝあり。藥價は一日分二十二錢計にして審法料(四百瓦)二十錢。頓服藥八錢なり。全市内開業醫は初診には診察料を含みて一元(壹圓)にして次で爾來患者となれば二日分壹圓なり。上海に至れば藥價尙高價なり。支那は一般に婦人を診察すること面倒にして婦人の控室も男子とは別々になり居れり。併し診察室は男女共同にして近來は内診することも漸次増加せり是れ子宮内膜炎等ありて抵抗術等を実施し是迄不妊症たりし婦人も妊娠するに至りしことが非常なる評判となりたればなり。

浙江省地方にては別に異なる殊種の患者なし

内科病。胃腸病及肺結核多きも淋巴腺結核は少なし

傳染病。霍乱斯の間歇熱多し殊に一二月の候に流行す然れども赤痢及實扶的里は尠なし上海には上水及下水の設あるも杭州は悉く井戸水を使用す。癩病は杭州に癩病院ありて英人之を設備し目下十數人を収容しつゝあり一般に癩病は日本よりも尠なからん

寄生蟲。蠅虫及蟻虫多きも十二指腸蟲は稀なり又「ダストマ」にては肺「ダストマ」あれども肝「ダストマ」を見ず

精神病。は日本と同様に狐や水獺「カハッソ」が憑依(ツク)するものとなし多くは自宅にありて祈禱するを常とす

皮膚病。濕疹を主とす

花柳病。微毒及淋疾の多きは何處も全様なり

眼病。「トラホーム」及結膜炎多し

腫腸。は一般に多からず然れども乳癌。胃癌。子宮癌は割合にあり

特殊病。「ラヒチス」は只一人あるを見たるのみ。甲状腺腫は少なからず主として上流及下流社會の女子に多し。阿片中毒は病院の創立時にありたるも今は絶對に之を見ず

浙江省公立醫藥專門學校

學生は目下三年生二十八名。二年生五十名。一年生百名。藥學科二年生二十名。一年生三十名あり中學校の卒業期が一定せざるために二回に募集しつゝあり目下の職員は左の如し

韓清泉氏 校長及病院長。外科。醫科。醫局員二人。

季 氏 外科(軍京私立醫專學校卒業)。三井慈善病院研究)

厲家福氏 内科。精神病。小兒科。醫員一人

錢 氏 全 上

胡 氏 歸人科(長崎醫專卒業)。醫員一人

李 氏 解剖(千葉醫專)

石 氏 生理(仙台醫專)

盛 氏 病理學(大阪醫專)

蔣 氏 細菌學(大阪醫專)(都督府軍醫課長)。助手日本人横山氏

藥學 李氏(金澤)。華氏(千葉)。周氏(長崎)。

物理。鑛物 董氏(東京高等工業)

化學 李氏(金澤)

國文 江氏。

倫理 葉氏(東京高師)

獨逸語 應氏(獨逸商科大學)。秦氏(青島獨逸高等專門學校)

學期は三學期に分つ第一期八月より十二月まで。第二期一月より三月まで。第三期四月より七月まで。

月謝。二十圓九月及一月の二回に分納。

入學試験。七月及八月に二回施行し應募者四百名あり之より百名を選按す醫術開業試験なるもの目下支那になし

杭州市内に於ける日本人は左の如し

杭州軍醫養成所には二等軍醫山田某氏あり

陸軍衛戍病院に七八人あり

杭州工業學校に二人あり

杭州を去る約一里の拱宸橋(日本租界)に日本人店四五十戸ありて人口二百人計なり主として雜貨を販賣す此他に日本醫師一名ありたるも成功せずして去りたり

杭州の家賃は十二圓乃至十六圓にして平均十五圓位なり押金百五十圓(十倍)

巡查の月俸十圓。下男一ヶ月四圓乃至五圓

月収百圓以上の者は外出するに輿を用ひ二人を使用す一ヶ月二十圓を要す

### ●臺灣の醫況

上 池 豊

上池氏は四十四年に本校を卒業して警察醫となり昨年臺灣の臺北醫院に轉任して皮膚科に奉職中なりしが嚴父の疾患によりて金澤に歸省せられたるにより去十月二十四日午後二時より婦人科教室に於て部長。醫員。三四年學生列席の上臺灣の醫況に就て精述し且つ問歇「プラスモヂューモ」。「アメーバ」赤痢標本。「フヒラリヤ」の顯微鏡標本を供

覽し尙ほ臺北の寫眞及び生蕃討代寫眞等を同覽せしめられたり。此後本校卒業生が母校訪問の節は亦全氏の如く後進のため自己の經驗と域遇と感想とを披歴せられんことを本會は切望す。

先達て此の母校を御訪ね申しました處が何か臺灣の面白き話でもせよとのことでありましたが私は一寸用事があつて來ましたので別に何も御話する様な材料もなく御断り申しましたけれども通常の話で澤山だといはれましてので本日は只私が彼地へ参りましたて見聞したことを少しく申し上げ様と思ふのであります而し私は臺灣に参りましたから僅に一年半しか立ちませぬので其の少しの間ですから基より中には誤たこともないではなからうかとも存じますが只諸先生の御笑ひに供するのみで至つてつまらぬことですから茲に向ふの繪葉書と生蕃討伐の記念帳がありますから私の話す間、れでも御覽下されて御退屈の出ぬ様に御願してきます。

御承知の通りに臺灣といふ處は内地と異なりて氣候といひ風土といひ總てが熱帶的でありますから従ふて吾々内地人が臺灣といふ事を思ふにつけて必ず聯想し且つ恐怖するのは先づ

第一、氣候でありまして果して内地人に適するか如何又何等の障害なきか  
第二、疾病であります、かゝる熱帶地なれば内地人は氣候になれざる結果多く疾病に犯されざるか、又流行する急性熱性傳染病(マラリア、ペスト、赤痢等)、に冒さる、危険なきや、

第三、風俗人情等、總てを異にし異人種(臺灣人)、多くして内地人少なき且つ開化せざるいふ(臺灣)殖民地なれば果して總ての設備なく交通機關なく大なる不便を有せざるか、

要するに大約以上の、氣候と疾病と不便と此の三ヶ條が渡臺者に向ふても顧慮することであると思ひ且つ小生も此の三つに就て渡臺時に憂へたのであります。されば今から此の三つに就て御話を申し上げ然る後に小生が臺灣に参りました一番痛切に感じましたこと即ち所感とでも申し上げ

ようか、夫のことを御話して御免を蒙うと思ふのでありますから、少ばかり御きし下さる様御願申して下さいます

始めに御断り申して下さいますことは私は臺灣では臺北よりは外には多くを知らないのではありませんから、私の御話し申上げることの大部分は臺北を標準として御話し申しますから夫のつもりで御きしを願ひます、

### 第一、氣候

氣候は臺灣では恰も、臺中を中央としては夫れより少しく南即彰化といふ處が溫帶と熱帶との境即ち緯度二十三度半に當る處にて從つて臺中を境としてそれより以北は溫帶と大差なく、以南は熱帶になる、それで臺北(以北にして溫帶を代表す)、臺南(熱帶氣候)、に行く人はそれぞれ異なる考へを有するに至當とす、

### 北部

臺北の氣候、は一般に内地と異なるなく、毎年五月より十月までが内地の夏の氣候にしてそれも、内地は七月と八月とが最も暑き様なれども、臺灣は六月と七月とが最も暑く、朝太陽の出るときより夕に沈するまで日中と全じ暑で要するに暑さが永ひ、而し日中には必ず一回の夕立と、涼風とは堪へず吹き且つ家の建築は高く風通り良く出來て且つ何處に行くも施風器の備へある爲めに左程には感せず、(汽車中にもあり)、本年の如きは七月八月は内地の方が遙かに暑かつたといふ話であり、本年の最高は臺北にては嘗て領臺後始めての最高溫との事で百六度を示し此のときは施風器の風は尙却て邪慮の感致し通常は涼しきと思ふ日は大約八十五度、暑く感ずるときは九十五度、何等思はざるときは九十度位にてあるも、夕立と涼風と設備の爲めに大した苦痛を感ずるとはなし、

十一月より翌の四月までは實に良き氣候にて恰も内地の今頃の氣候が続くので勉強するには最も良き時季にて只一月と二月三月の半頃までは雨期で割合に雨多く随分寒く感ずるので十二月の末から二月中は「ストー

プ」をたくであります、五十度位のことは珍しくないのであります、家に歸れば火鉢は入用で私は本年は研究室に火鉢を運んで手をあぶつたことがあります。それで此の暑さといひ寒さといひ臺灣に永く居れば居る程なれて來まして暑さは左程に思はぬが寒さは實に甚しく感ずるものです。而し、本年の元旦にはフロツクを着て太陽に照らされし爲めに汗だらだらになつたのであります、

毎年新兵が内地より來ますときには實に暖かな良き處に來たさで喜ぶそうですが夏になると閉口するそゝです

### 南部

臺北の氣候、夏と冬の二つに別れて、全しく五月より十月が夏期にてそのときは随分高くまで昇るけれども北部より一層甚しく涼風あり且つ雨多くして此れも割合に凄き易く臺北の夏の暑さより遙かに暮し易くと稱せり、即金澤の方が却て九州地方より暑き、とある關係の如し、冬は北部と異なり雨期にあらずして毎日毎日の好天氣にて冬にても七十度ホル一牧にて澤山といふなり、

先達土肥先生の御話でしたが、先生がシンガポール、(赤道直下)にて一週間留學途次滞在されたときには左程のことなかりしといふ御話を承りました、尙夏中にては南部の方が却て北部より實際に於て溫度の昇らざる且つ南部の人は北部より餘程暮し易きといふて居るが又北部の人は内地と全様で最も良きといふて居る、

果して内地人に適するか否か、  
前の様な氣候の爲めに吾人が受ける影響は如何といふに、一般に臺灣人は体格劣等にして瘦せ皮膚は光澤なく一種不快なるいひ難き黒褐黃色を呈し、一見何か、血液の疾患にてもあらざるかを想はしめるなり、且つ内地人にては臺灣に二三年居る間有る土人とは至らざるもそれに類似する皮膚色を有するなり、私は此の血液に及す變化に就ひては直接に檢



せしこともなきも、嘗てしらべた結果によると、微毒第二期の血液の變化と全様といふことを聞きよしたので即第二期の變化なれば、赤血球殊に血色素の減少を最とし、加ふるに比較的白血球の増加が重にして従ふて血色が悪くなるのであります、而しながらそれ等のことは決してそれるゝにたらざることは斷言してはゝからぬのであります、

要するに此の暑さに向ふては一般に天熱的の設備(涼風、夕立、及び人工的の設備がある爲めに決して心配することはないと思ふのであります、

## 第二、疾病

此れは熱帶地の臺灣なれば研究すると甚だ趣味を有することがあるでありませうけれども淺學なる小生には未だ夫の頭がないので此後諸先生御教示を辱うしようとして大には研究をしたきものと存じてゐるのであります、

吾人は今渡臺時に顧慮する疾患は熱帶地なれば必ず急性の傳染病であります、今それに就いて少しく御話してみようと思ふのであります、私は向ふては皮膚、花柳病の方をやつてゐるのでありますから甚だそれ等のことに就いては何も存せぬので只内科の人から聞いたことを御話するのでありますから誤が澤山あることは始めに御斷り申し上げます、

一、ペスト、コレラ、  
ペストは嘉義地方に一部今でも存するのであります、今年夏に臺北の一部に出ました對岸の方より本島人が持つて來たといふのであります、が周約二程の銀土塀を築きまして夫の地方のみですんだので御座います、

コレラは臺灣には見ないので對岸に見るのみで昨年吾々の先輩で千葉君が先頭で職に死せられたのであります、

二、赤痢、重にアメーバ赤痢、(細菌性のものもあり)、一盲腸炎、ザルバルサン、ユメチン、

三、マラリア、熱帶マラリア、臺北にはなし、一熱帶マラリア、黒水熱四、チフス、シャルラッハ、内地と異なるなし、  
以上のものは、建築、水道、下水等衛生の良くなるに達して減少するのであります、

小生等の如き未だ一度も傳染せしことなし、要するに一定の養生をして健全を保つならば決して此等に犯される心配はなむと思ふのであります、  
以外の疾患として、皮膚病のことは先達話しました故に重複するをその爲め止めて、

五、肺チストマ、(中川氏の研究)、ヒラリア、甲狀腺腫、醫院の熱病の諸検査(血液)

## 第三、不便の感

御承知の通りに吾國は今や七人種が居る夫の内、固有の二人種即ち臺灣人、生蕃人、と内地人、(琉球人もあり)があり、内臺灣人は三百万内地人は僅かに十五六万しかなし、それが臺灣人は内地人に甚だ長く服従するに兒玉大將の制度にて、土匪平定より今に至るまで何等なし、交通、基隆、打狗、の二良港、定期交通、瀛車、建築、道路、上下水、人力車、食物、開業醫(田舎の公醫)は言語の必要あり、要するに内地人の居らざる田舎に行けば特別なれども、一般にかゝる心配は無用なり、

## ●廣島同窓會の會員

大正三年十月調によれば左の如し。

廣島市猫屋町開業	今井玄三松
○廣島市上水道水源地球技手	橋本安吉
歩兵第十一聯隊醫官	西村貞俊

○廣島縣立病院藥劑局長

○廣島市天神町開業

步兵第十一聯隊醫官

○廣島縣立病院藥劑局

○同上 同上

廣島陸軍被服支廠醫官

○私立澄川病院藥局

騎兵第五聯隊醫官

○廣島縣立病院藥劑局

○同上 同上

假事務所 廣島市猫屋町百七番邸今井醫院內

堀 大次郎

築 紫季雄

鶴 來政雄

中 出長松

栗 山周作

松 浦啓三

藤 卷國平

赤 尾肇三

宮 島卯吉

末 岡愛一

九月三十日

金澤醫學專門學校教授醫學博士 松原三郎

補金澤醫學專門學校生徒監

內藤得之助

任金澤醫學專門學校助教授

給九級俸

●金澤醫學專門學校

九月二十三日

解剖學授業補助囑託 山科龜義

依願囑託ヲ解ク

十月一日

喜多喜永

藥學科副手ヲ囑託ス

十月五日

雇申付 月俸金拾五圓給與

河原芳長

解剖學副手ヲ命ス

十月十日

佐口榮

解剖學理論及實習ノ講師ヲ囑託ス

年手當金九百圓給與

●宮内省

九月三十日

叙從六位

正七位 藏光長次郎

●文部省

九月二十三日

金澤醫學專門學校教授 阿部莊二

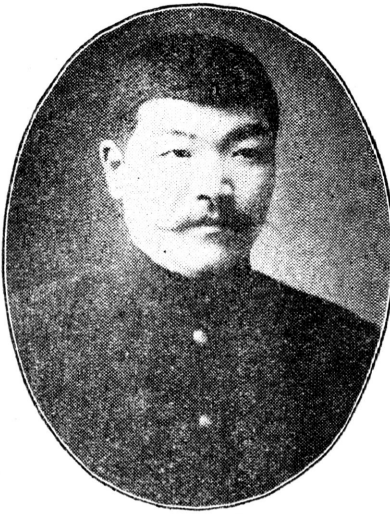
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス

# 人事

## ●小俣軍醫の戦死

海軍中軍醫小俣幹翁氏は新潟縣に生れ明治四十四年に本校を卒業し直ちに海軍に籍を置き軍艦高千穂に乗りて膠州灣頭の封鎖監視に従事中なりしが

去十月十七日深  
更敵軍の敷設せ  
る水雷によりて  
軍艦及同胞二百  
七十餘名と共に  
名譽の最後を遂  
げられたり。思  
ふに水雷を受け  
て全艦の動搖と  
爆發の煙と光と  
の中に平素沈勇  
なる全氏は必ず  
や自らとして大  
膽に其職責を盡  
くし以て沈み行  
く艦の運命と共に



に水底深く護國の神と化したるなり。傳へ聞く十八日拂曉近く尙ほ生き延

べる者數名此處彼處に泳ぎ集り刻々に迫れる死を待ちつゝ國歌「君が代」を合唱し次で「此處は御國の何百里」と軍歌を甲が歌へば乙が續げ聲は次第に微かになつて終に波に吞まれたり。吾人は其悲痛なる最後を聞くに涙滂沱たらざるを得ざるなり謹んで吊す。

●百谷義一氏 全氏(三十一年卒業)は一年志願兵を卒へて郷里なる越中國氷見町に於て開業し全地第一流の開業醫として名聲囂々たりしが不幸にして腸胃扶斯に罹り十月十三日終に死去せられたり謹で吊す。

●宮田教授歸朝 本年二月中旬渡歐耳鼻咽喉科學研究に従事中なりし同教授は歐洲戰亂の爲め獨國より英京に避難せられシベリヤ線安東線經由朝鮮を経て十二日午後九時五十分無事金澤驛着無事歸朝せられたり。

●石坂。須藤兩教授歸朝 石坂生理學教授。須藤醫化學教授は同前戰亂の爲め石坂教授は米國經由。須藤教授は印度洋經由無事歸朝せられ十月二十四日出校せられ二十六日午後一時より講堂に於て石坂教授の新任披露式を挙げたり。

●生沼曹六氏 醫學博士全氏は明治三十一年本校を卒業以來常に東京に永住し目下東京慈惠醫專校の教授として生理學研究中なるが此度先祖の法要のため十月十七日早朝富金澤に歸着し十九日本校講堂に於て講話部の臨時會を開きて全氏に講演を乞ひ全博士は内分必「アブデルハルデン氏反應、休外組織培養、麻酔の原理等に就て二時間に亘る長演説あり全夜は金谷館に於て學校。病院。市内開業醫諸氏の全博士歡迎會あり遠きは富山市の田上清貞「ドクトル」。小松町の國分金城氏。田中健次氏等の來會ありて盛會なりき。全博士は二十一日早朝出發して歸京せらる。

●塚本政治氏 (四十二年卒業)昨夏渡歐ミュンヘンに於て内科學研究中なりしか歐洲戰亂の爲めシベリヤ經由廿一日無事歸朝せらる。

●丸山直友氏 (四十二年卒業)本年六月渡歐せられ氏は同上の厄にあ

ひ去月末海上無事歸朝せらる。

●高崎文雄氏 (大元)卒業以來當市川北病院にあられし氏は今般福閣醫科大學耳鼻咽喉(久保博士指導)に研鑽の爲客月出發せらる。

### 開業

●春山盛道氏(四十二年卒業) 東京府下北豐島郡巢鴨町字宮下千六百九十番地に於て内科小兒科の診察に従事せらる。

●河崎正雄氏(四十一年卒業) 東京市小石川區宮下町四八番地にて一般患者の診察に従事せらる。

### 轉任

●渡邊四郎氏(四十二年業) 今回明治病院を辭し臺灣總督府打狗醫院へ榮轉せらる。

### 轉居

横須賀海軍工廠醫室  
埼玉縣粕壁町字八丁目九十七番地  
東京府下北豐島郡巢鴨町字宮下一六九〇  
臺灣總督府打狗醫院  
奈良縣山邊郡丹波市町  
東京市本郷區根津須賀町一八

長井運男(三)  
山中房次郎(四)  
春山盛道(四)  
渡邊四郎(四)  
岩井尊宗(四)  
端谷豐吉(大元)

## 會告

●自大正三年八月廿四日校外特別會員會費納付調書  
至大正三年十月廿六日

氏名	金額	期限
松井梅次郎殿	一金壹圓也	大正二年度分
春日望殿	一金壹圓也	全
内藤三太郎殿	一金貳圓也	自大正元年度分 至大正二年度分
輕部修一殿	一金貳圓也	全
栗林信殿	一金壹圓也	大正二年度分
天野隆義殿	一金壹圓也	全
小林唯四郎殿	一金壹圓也	全
大野幸重殿	一金壹圓也	全
山口敏雄殿	一金壹圓也	全
松井源長殿	一金壹圓也	全
美原文二殿	一金壹圓也	全
土屋重俊殿	一金壹圓也	全
高岡榮殿	一金參圓也	自四十四年度分 至大正二年度分
村上盛榮殿	一金壹圓也	大正三年度分
伊坂春殿	一金壹圓也	大正二年度分
甘利昇殿	一金壹圓也	全
岡田秀造殿	一金壹圓也	全

一金壹圓也	大正二年度分	小島顯	治股
一金四圓也	自大正三年度分	太田勘	市股
一金壹圓也	自大正二年度分	曾田米三	郎股
一金壹圓也	全	伊藤禮	二股
一金參圓也	自大正三年度分	佐藤祐	造股
一金壹圓也	自大正五年度分	鈴木琢	磨股
一金壹圓也	大正二年度分	高橋八	郎股
一金壹圓也	全	那谷與	一殿
一金壹圓也	全	太田長	作股
一金壹圓也	全	齋藤賢	德股
一金壹圓也	全	牧其	一殿
一金壹圓也	全	春山盛	道股
一金壹圓也	全	關根	平股
一金五圓也	自大正二年度分	淵崎歸	一殿
一金壹圓也	自大正二年度分	宮城篤	珍股
一金貳圓也	自大正元年度分	勝部方	策股
一金壹圓也	自大正二年度分	千田常	外股
一金參圓也	自大正三年度分	渡邊政始	郎股
一金壹圓也	自大正五年度分	神岡藤一	郎股
一金壹圓也	大正二年度分	室田茂	人股
一金壹圓也	全	高井魯	一殿
一金參圓也	自大正三年度分	今村鐵	夫股
一金壹圓也	自大正五年度分	柿澤雅	一殿
一金壹圓也	大正二年度分	吉川友	信股
一金壹圓也	全	吉澤祐	寬股
一金壹圓也	全	古谷	強股

一金參圓也	自大正三年度分	荒川正	雄股
一金貳圓也	自大正三年度分	錢崇	潤股
一金壹圓也	自大正四年度分	大井	精股
一金壹圓也	大正三年度分	新田友三	郎股
一金壹圓也	全	上野	忠股
一金參圓也	自大正三年度分	木村豐三	郎股
一金壹圓也	自大正五年度分	西尾貫	一殿
一金壹圓也	大正二年度分	松尾	等股
以全			

●創立二十五年記念館寄付金第四回報告

(十月二十七日迄ノ分)○印ノモノハ現金領收簿ノモノ)

氏名	金額	氏名	金額
○上原秀三殿	一金參圓也	○大井	精股
○杉本恒治殿	一金五圓也	○長崎謙	治股
○中川鯉太殿	一金參圓也	○飯田	豐股
○駒屋禮二殿	一金參圓也	○佐藤祐	造股
○中堀孫一殿	一金參圓也	○北村一	清股
○駒井定哉殿	一金參圓也	○吉井定	次股
○諸橋嘉久治殿	一金五圓也	○庄田喜太郎殿	
○新次郎吉殿	一金參圓也	○荒川正	雄股
○時國良作殿	一金參圓也	○山口	榮股
○小幡學雄殿	一金五圓也	○古屋興	三股
○吉川孝作殿	一金五圓也	○玉崎隆	三股
○水上岸太郎殿	一金參圓也	○堀孝	信股

一金五圓也	○丸山 讓殿	一金參圓也	東 義 雄殿	一金五圓也
一金參圓也	字 野 正殿	一金參圓也	○茂居 政治殿	一金拾圓也
一金五圓也	石倉宗 嗣殿	一金五圓也	○藏 尚太郎殿	一金五圓也
一金五圓也	○新田友三郎殿	一金五圓也	○石田 他人殿	一金五圓也
一金拾圓也	○諸角友 平殿	一金五圓也	○堀田圭 三殿	一金拾圓也
一金五圓也	○細田 榮殿	一金五圓也	○生沼曹 六殿	一金參圓也
一金五圓也	○橋 良 玄殿	一金五圓也	○武田 正 壽殿	一金參圓也
一金五圓也	○關 重 忠殿	一金五圓也	○都築熊 藏殿	一金參圓也
一金五圓也	○上 野 忠殿	一金五圓也	○岡田剛 吉殿	一金參圓也
一金五圓也	○山田金一 郎殿	一金五圓也	○藤井助 雄殿	一金參圓也
一金五圓也	○小山田 基殿	一金拾圓也	○阿部莊 二殿	計金百拾參圓也
一金七圓也	○三木三 郎殿	一金五圓也	○水上 佐太郎殿	
一金五圓也	○神保正 長殿	一金五圓也	○森田 齋次殿	
一金參圓也	○岩崎勝 治殿	一金參圓也	○今井七兵衛殿	
一金參圓也	○馬場庄 江殿	一金參圓也	○丹 羽 直殿	
一金五圓也	○堀井京 治殿	一金參圓也	○長井運 男殿	
一金參圓也	○中山甲五郎殿	一金參圓也	○中原德 彌殿	
一金參圓也	○並河正 雄殿	一金參圓也	○植木信 親殿	
一金參圓也	○山本幸 吉殿	一金參圓也	○増井榮太郎殿	
一金參圓也	○松尾隆 一殿	一金參圓也	○藤井一 雄殿	
一金參圓也	○木谷義太郎殿	一金參圓也	○平井義 清殿	

累計金壹千四百九拾九圓五拾錢也

▲第三回申込報告後現金領收ノ分

一金五圓也 田邊鼎介殿 一金拾圓也  
一金五圓也 中野才幸殿 一金五圓也

中川幸庵殿  
山崎秋津磨殿

真柄佐一郎殿	一金五圓也	小島佐藏殿
篠尾明濟殿	一金五圓也	赤倉喜久雄殿
森川 修殿	一金參圓也	馬場 稠殿
小出貞次郎殿	一金五圓也	梶川藏重殿
垣内 昇殿	一金參圓也	加瀬順之助殿
村松貞治殿	一金參圓也	黒田道純殿
山田有登殿	一金參圓也	的場周造殿
藤浪 謙殿	一金參圓也	小池勇助殿
水上俊三殿	一金五圓也	佐藤邦次郎殿
島村伊之助殿	一金參圓也	森 茂殿

計金百拾參圓也

## 廣 告

左記の方は居所不明に付御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一報下され度御願申上候但し姓名の上に◎印あるは最近に不明なり  
りたる人々なり

舊住所

東京芝養生園  
大阪市東區京橋三丁目  
伊勢國阿蘇郡河西村字木田八六  
富山縣魚津町  
石川縣羽咋郡高濱村河崎醫院内  
園崎純次郎(二)  
森岡惣太郎(三)  
片岡 正(全)  
前田豐作(三)  
小林五佐(全)